

名古屋鉄道(株)との協議の方向性について〔案〕

1 協議の開始

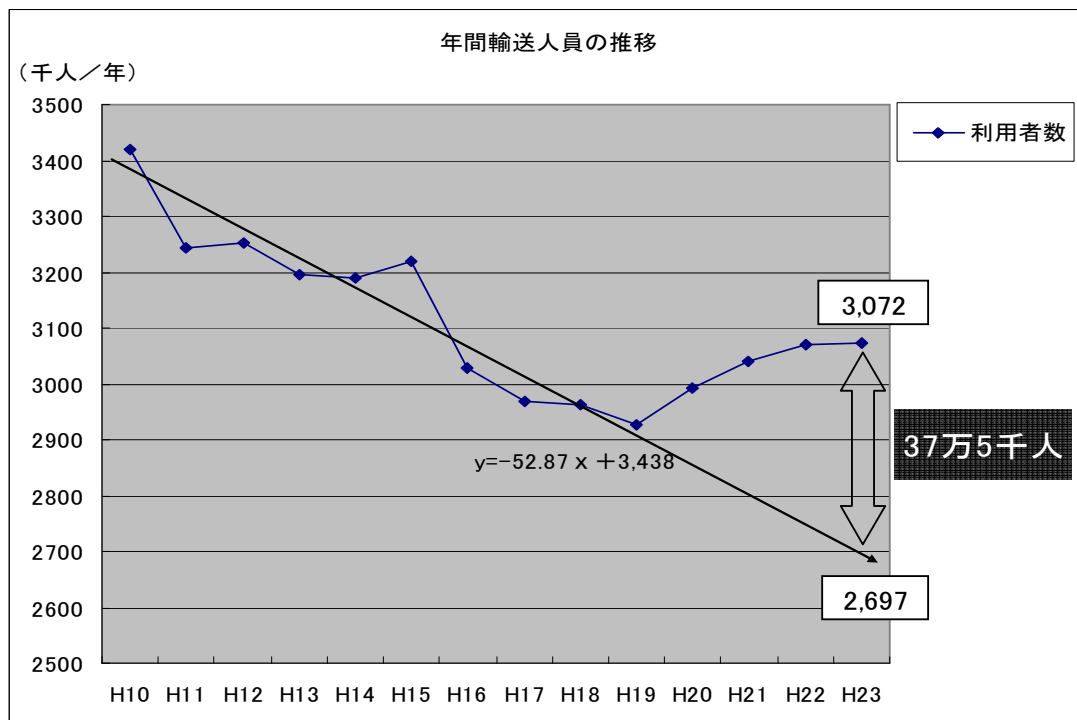
平成25年度以降の運行及び支援の継続については、平成23年3月に沿線市町と名鉄との間で締結した確認書第6条で「関係市及び名鉄間であらためて協議のうえ決定し、24年度中に結論を得られるよう努めるものとする」としており協議を開始した。

2 現状の分析

(1) 利用状況について

平成23年3月に本対策協議会で策定した「名鉄西尾蒲郡線活性化計画」の実現に向け、平成23年6月、名鉄西尾蒲郡線活性化協議会を設立した。そして、9月には、活性化実施計画を策定し西尾市、蒲郡市の両応援団を利用促進活動の核として、さまざまな取組を展開した。

その結果、23年度の利用者は307万2千人で、目標値であった313万7千人には届かなかったものの、4年連続での利用者増を達成することができた。なお、この307万2千人という数値は、何も手立てを行わなかった場合の予想数値269万7千人と比較すると37万5千人の増となっている。



(2) 区間収支について

財政支援額の算定基礎となった平成21年度の収支と23年度収支を比較すると、収入は平成21年度の367,676千円から23年度が356,168千円と11,508千円の減となった。支出については、平成21年度が1,229,812千円であったのに対し、経営の合理化等により23年度は1,123,396千円で106,416千円の削減が図られた。これにより、経常損益は、平成21年度862,136千円の赤字であったものが23年度は767,228千円の赤字となり、94,908千円の赤字額減少となった。

3 西尾市、蒲郡市の取組み

名鉄西尾・蒲郡線を「三河地域の生活交通に必要不可欠な社会基盤」として位置付け、各種事業を展開してきた。これまでの活動は、市民への啓発を兼ねイベントを中心に実施してきたが、今後は、更に新たな視点での利用促進が求められる。

(1) 西尾市の取組

西尾市は、10月1日からデマンド型の乗合タクシー「いこまいかー」の実証運行を開始した。これは鉄道、路線バス等地域の交通資産の特性を生かした新たな交通システムの構築を図るというもので、長距離、中距離移動は鉄道が、中距離移動はバスが担うこととし、これら地域間交通ネットワークと自宅とを直接結ぶ短距離移動を「いこまいかー」が担うというシステムである。鉄道は、新たな交通システムの根幹に位置づけているものであり、この構想の中で、なくてはならないものとなっている。

(2) 蒲郡市の取組

蒲郡市は、平成22年度より名鉄蒲郡線沿線にある温泉旅館に平日宿泊をする客を対象に名鉄利用者1名に対して宿泊料金を1,000円割引く『温泉宿泊割引』を実施しております。平成22年度は先着2,000名、23年度は1,000名とし定員に達した。

名鉄蒲郡線沿線の温泉旅館が、名鉄電車を地域の観光インフラとして必要であるとの考えのもと、利用促進を図る本市としても、その活動に対し助成を行っていききたいと思っている。

また、平成25年3月完成予定の（仮）蒲郡市観光交流センターにおいてテーマ別タッチパネルモニターで名鉄西尾・蒲郡線の紹介を行いたいと考えている。

これを機会に、名鉄の利用者数の増加を図ってまいりたいと考えている。

4 協議の方向性

名鉄西尾・蒲郡線は、三河南部地域の通勤・通学者や高齢者など交通弱者の大切な足として、また、環境保全、地域発展の観点からも沿線市にとって必要・不可欠な路線となっている。

存続の手法については、新たな組織体制での運行管理も考えられるが、莫大な初期費用や、運営面でのリスクが非常に高いため、平成25年度以降も現在の運行形態を継続することが最善であると考えます。今後、関係市は、支援金額、支援の期間について、名鉄と今年度中に結論が得られるよう具体的な協議を進めていく。